

学んでほしい生徒について

1. 学んでほしい生徒像

様々な「困り」を抱え、義務教育段階や高校において学びのつまずきを経験しながらも、就職や進学を見据え、学習意欲を持って、京都奏和高校で学習支援や「学び直し」を求めている

2. 学んでほしい生徒像の具体

(1) 大前提

京都奏和の教育内容に魅力を感じ、この学校で学び、卒業したい

(2) 加えて、次の4つのうち、1つ以上の思いを持っている

- ◎ 学習上の困難やつまずきを振り返り、学び直しからスタートしたい。
- ◎ 学校生活に不安を感じているが、上手に人間関係を築きたい。
- ◎ 集団の中で学びづらさを感じているが、学校という環境(集団生活)の中で学びたい。
- ◎ 不登校を経験したが、学校に通って学びたい。

(3) さらに、次の京都奏和ならではの魅力を1つでも感じている

- ◇ 新しい環境の中で、リスタートできるので、安心して学べる。
- ◇ 時間割等の枠組みが決まっているほうが安心して学べる。
- ◇ 学びやすい時間帯が選択でき、さらに少人数なので、安心して学べる。
- ◇ サポートがあると力が発揮することができるので、安心して学べる。

3. 入学後に生徒が「思っていた学校と違う…」とならないために

入学前から以下のように考えている・希望している生徒はもう一度ご検討ください。

◆ 登校せずに、教育活動の参加を必要最小限にして卒業したい

- ➡ 「卒業資格のみ」を得る目的で教育活動へ参加をしても、学校教育目標に掲げている力や態度、「育みたい6つの力」を身に付けることはもちろん、育ってほしい姿に到達することが難しいと考えます。

また、登校することが難しい場合、自宅からのICTを活用した遠隔授業を実施し、一定単位数までは履修を認められるよう検討していますが、あくまで学校における集団での学びに戻るためのステップ(方策)の一つと考えており、高等学校の卒業に必要な全単位数(74単位)を遠隔授業でのみ修得することは認められていません。在宅での学習を主とした形態は、本校のカリキュラムにはありませんので、ご注意ください。

◆ ルールやマナーには、しぼられたくない。

- ➡ 京都奏和高校は、ルールやマナーにしぼられない自由な学校というわけではありません。学んでほしい生徒像が示すとおり、様々な困りを抱える生徒を受け入れ、「集団」での学びを大切にしながら、教員も一人一人の学びを丁寧にサポートしていきたいと考えています。ですから、むしろルールやマナーをととても大事にしています。

他者への暴力行為はもちろん、暴言や粗暴な行動などで他の生徒の教育権を妨害することは、絶対に許されない行為とします。入学後に前述したような「集団」の学習環境に理解が得られず、支援・指導を続けても改善が見られない場合は、毅然とした対応を行います。

様々な困りを抱えて集まったメンバーだからこそ、お互いを理解し、支え合える環境づくりを常に目指します。

◆ 「基礎・基本」の学びではなく、発展的な学習内容を強く希望する。

- ➡ 京都奏和高校の教育課程は、難関大学を目指すような仕組みにはなっておりません。理由の1つ目として、最小の時間数で設定されています。(例えば全日制の1年生では国語の授業は1週間に4時間程度ありますが、京都奏和は2時間となっています)

2つ目は「発展的な内容」を扱うことよりも「基礎・基本」を重視しています。

そして3つ目は社会に出てから必要となる力をつけることを念頭に置いて、それぞれの科目を設定しています。京都奏和高校の特色である「キャリア」「ビジテック」等のカリキュラムは、社会との繋がりを通じて社会性やコミュニケーション力を育み、社会的自立の基礎を築き、就職や進学を目指すことを目的としています。ですので、本校のカリキュラムは、難関大学進学を目指すような仕組みになっていないことは、ご理解いただけるのではないかと思います。主に、今年度から実施される総合型選抜(これまでのAO入試)や学校推薦型選抜(これまでの推薦枠を利用した入試)等で大学や専門学校への進学を目指すことを想定しています。

◆ 特別支援学校のような教育環境及び教育内容を望んでいる。

- ➡ 京都奏和高校では、困りを持った生徒達のために様々なサポート・相談体制をとっています。専門家を配置するなどして、できる限りの支援を行っていきます。ただし、特別支援学校と同等の教育環境及び教育内容を提供できるものではありません。進路変更等の不利益を生徒自身が被らないようにするためにも、判断に迷う場合は、早急にご相談ください。